

健康講演会

生活安全部長 松原益雄

二月十四日(日)に、健康講演会を開催し、五十六名の方にご参加頂きました。講師には、二年前にもお願いした、大越章吾先生(日本歯科大学内科学講座 教授・医科病院 院長)と、姥ヶ山で開院されている古嶋博司先生(ふるしまクリニック 院長)の医学博士お二人にお願いしました。

講演は、大越先生は「肝臓病」、古嶋先生は「心臓病」と、それぞれの専門分野をテーマとした内容で、両先生ともお話が上手でわかりやすく、途中で笑いも入り、とても楽しく聴かせて頂きました。

また、その後の質問コーナーも盛況で、皆さん、各自の体調や病気についてや、病院を移りたいがどうすればよいかな等、ざつとばらんに質問されましたが、先生方からは丁寧にご回答いただけたようです。

今回のような、異なる分野の講演を同時に聴けるというのは、新潟大学や新潟市医師会主催の市民公開講座では無いことで、貴重な講演会であったと思っています。

両先生には、講演料とは程遠い僅かな謝礼にも関わらず、この講演会のために、それぞれ六十ページのスライドを事前にご準備頂いておりました。この紙面にて、あらためて厚く御礼を申し上げます。

生活安全部の主な業務は、自治会防災会としての防災訓練の企画・運営ですが、毎年それ以外に独自事業を行っています。今年度は、「防犯講演会」を予定しておりますので、ご参加頂けますよう、お願いいたします。



質問コーナー



古嶋博司先生



大越章吾先生



地蔵堂に響く調べ

満開の桜も散り始めた、ある朝、地蔵堂のお祭りのポスターを目にして、四月十六日の催しにお邪魔しました。

地蔵様にクラシック音楽？ 妙な取り合わせと思われるが、小編成の弦楽四重奏は、最初に、折から現在進行中の熊本地震被害者の為、バツハの「G線上のアリア」が演奏され、続いて、モーツアルトの「セレナーデ」(アイネクライネ ナハトムジーク)、山田耕筰の小品メドレー、ビバルディの「四季」より「春」等の楽曲のハーモニーは堂内の空間に広がり、演奏家と膝を接する位、間近の聴衆を魅了するものでした。

当日、新潟室内合奏団を招かれた、企画の新しい感性に敬意を表します。祭礼はその後、甘酒の接待、草餅つき、読経のあと供物のお菓子撒き等が行われ、幼老の皆さんは春の到来を喜び、一日を楽しまれた事でしよう。

六体の地蔵様も妙なる調べをお聴きになり、ことさら柔和なお顔に拝されました。石佛山地蔵堂は姥ヶ山発祥の地と言われ、諏訪社と共に私達地域住民の心の拠り所と言えます。

今日の様な催しは、単なる宗教的行事を超え、地域の文化的行事であり、かつての村落の歴史を紡いで来た先人先輩の方々の思いにも沿うものであると思います。

普段から地蔵堂の維持管理に努められる講中の方々、行事運営に携われた皆さんに、今日は良いものを聴かせて戴き、お礼申し上げます。

姥ヶ山五丁目 岡部久一



春の午後 弦楽の響く 地蔵堂



訃報

悲しいお知らせをしなければなりません。六月十日午前九時、前自治会副会長の利根川高雄さんがお亡くなりになりました。

本誌第二面の退任のご挨拶文をいただいた翌日のことでした。文中にもございますように、利根川さんは、昭和五十八年四月から三十三年間にわたり、姥ヶ山自治会の役員を務められ、この地域を支えてこられました。「使命感」「先見性」「決断力」に優れた方で、姥ヶ山自治会の発展に大きく貢献された方です。非常に残念です。心からご冥福をお祈りいたします。

「参加型の自治会」

本誌自治会長長の文中「参加型の自治会」とありました。素晴らしいなあ、ドキツとしました。参加型とは、行事に参加するということだけではなく、自分の意見を遠慮なく言うことで、会運営に参加するということも含まれるのだと気付かされました。

Y・K

投稿募集

最近気になること、ちょっとした話、サラリーマン川柳など、まじめなご意見から笑えるお話しまで、会員皆様の原稿を募集しています。発行は、毎年2回です。詳しくは、各ブロックの総務部までお問い合わせ下さい。

編集後記